

Case.22

鹿児島県阿久根市

観光まちづくり戦略の策定

阿久根市の概要

阿久根市は、鹿児島県北西部に位置し、高松川河口の阿久根港を中心に古くから海・陸交通の要衝として海運業・商業等が栄えてきた。

北部は激流が渦巻く日本三大急潮のひとつ黒之瀬戸を隔て長島町と接し、東部は出水市、南部は薩摩川内市と接している。東シナ海に面した約40kmにもおよぶ美しい海岸線や、沖合およそ2kmに浮かぶ阿久根大島は海水浴や釣りの名所として知られており、毎年多くの観光客が訪れる。

沿岸を洗う黒潮は、いたるところに亜熱帯の植物を育み、温暖な気候を利用した農業や水産業も盛んである。品質の高い数多くの生鮮品や加工品は、「アクネ うまいネ 自然だネ」の統一ブランドで全国に向けて出荷されており、なかでも特産品の「阿久根ボンタン」は全国有数の生産量を誇る。

来訪客の玄関口として、車・バス利用者向けには道の駅「阿久根」や交通結節点の阿久根駅、鉄道利用者向けには肥薩おれんじ鉄道の各駅（折口駅、阿久根駅、牛ノ浜駅、薩摩大川駅）がある。特に牛ノ浜駅周辺では、県指定文化財である「牛之浜海岸」等の絶景を車窓から楽しむことができる。

鹿児島県における位置



主要データ

人 口	21,198人（平成27年国勢調査）
面 積	134.29km ² （平成27年全国都道府県市区町村別面積調）
事業所数	1,127事業所（平成26年経済センサス－基礎調査）
従業者数	9,376人（平成26年経済センサス－基礎調査）
第1次産業	222人（平成26年経済センサス－基礎調査）
第2次産業	2,554人（平成26年経済センサス－基礎調査）
第3次産業	6,600人（平成26年経済センサス－基礎調査）
耕地面積	1,260ha（平成27農林水産関係市町村別統計）
漁獲量	9,323t（平成26年農林水産関係市町村別統計）

観光まちづくり戦略の策定

利活用事例の全体像 施策立案型

活用の背景

人口減少による地域経済の衰退を防ぐために、従来の産業体系だけに頼らない取組として、農業、水産業等すべての産業を観光関連産業と位置づけた観光によるまちづくり推進の検討を目的として分析を行った。

分析 1 県および県内周辺地区への訪問状況
(独自分析)

分析 3 市内産業の影響力係数・感応度係数
(地域経済循環マップー生産分析)

分析 2 市への訪問客の動向
(まちづくりマップーFrom-to分析 (滞在人口)、独自分析)

分析 4 市内の産業構造
(地域経済循環マップー生産分析)

課題の見える化

- 阿久根市を訪問する観光客は多いものの、通過型観光地化されていることが課題となっている。
- 農林水産業および食料品は稼ぐ力が強いことから、「食」を核とした観光事業を推進することが、市の観光事業の発展につながる可能性があることが分かった。

分析 5 イベント開催における
訪問状況 (独自分析)

分析 6 市内の観光資源の現状
(独自分析)

分析 7 市および近隣エリアの
観光目的地 (観光マップー目的地分析)

分析 8 農水産業就業者の年齢構成
(産業構造マップー農業者
分析、海面漁業者分析、
独自分析)

得られた示唆と課題解決のための施策案

- 近隣エリアだけでなく、鹿児島市等の近郊都市圏も観光事業のターゲットとなる。
- 多彩な観光資源を有しているものの、観光客を市内に呼び込むことができていない。
- 市の強みである「食」を核とした観光戦略を展開するにあたっては、農水産業の高齢化および縮小が課題となっている。

- 訪問客の大半を占めている鹿児島市等の近郊都市圏および近隣エリアを中心ターゲットとした観光戦略を策定し展開していく。
- 観光コンテンツを充実させることにより、域内の消費単価の拡大を狙う。
- 市民が一体となって観光戦略を展開できる体制の整備を行う。

活用の背景

阿久根市では、温暖な気候や東シナ海の豊かな恵みを活かした第一次産業を基幹産業として、そこで生産される農水産物を原料とする食品加工業を中心に地域の振興と発展が図られてきた。一方で、少子高齢化が進み、人口減少に歯止めがかからない状況であり、地域経済への影響が懸念されている。

人口減少による地域経済の衰退を防ぐためには、農業、水産業、商工業すべてを観光関連産業と位置付け、「食のまち」としてのブランディングと観光によるまちづくりを推進していくことが必要と考えている。また、南九州西回り自動車道や北薩横断道路等の交通網の整備を見越した観光戦略の策定の必要性も実感しているところである。

そこで、市の自然の恵みをフル活用した持続可能なまちづくりを目指し、「観光まちづくり戦略」を検討するにあたって、市を取り巻く観光の現状を分析することとした。

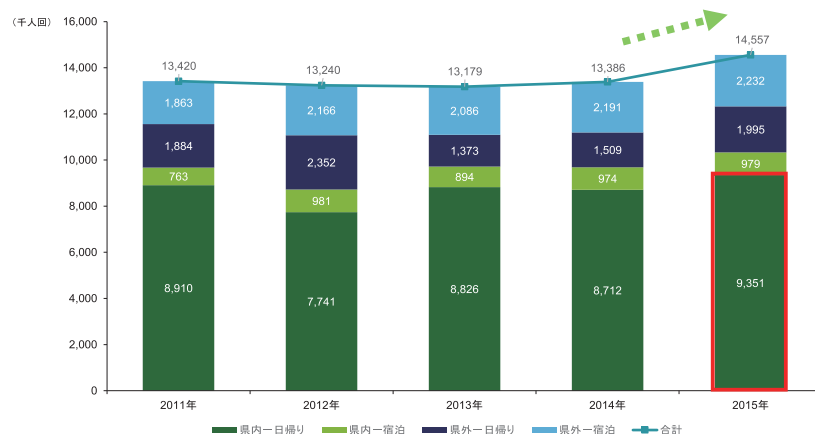
分析① 県および県内周辺地区への訪問状況（独自分析）

阿久根市における観光を取り巻く現状を把握するため、まず、鹿児島県および県内周辺地区における観光客の入込状況について分析した。

図1は、鹿児島県に観光目的で訪れる日本人の入込客数を示したものである。これをみると、観光客の半数以上が県内の日帰り客であり、2014年から2015年にかけては、観光客が100万人以上増加していることが分かる。また、図2は鹿児島県を訪れる宿泊者および日帰り客を地区別に示したものである。これをみると、阿久根市が存在する北薩地区^{※1}は観光客数が鹿児島県下第3位の地区であり、県内でも特に前年比の増加割合が大きい地区であることが分かる。

以上より、鹿児島県への観光客は増加しており、特に北薩地区を訪れる観光客は大幅に増加していることが分かった。

（図1）観光入込客統計（鹿児島県・日本人・観光目的）[2011年～2015年]



●観光庁「共通基準による観光入込客統計」を基に阿久根市作成

（図2）鹿児島県の観光の動向（地区別延べ宿泊者数＋地区別延べ日帰り客数）[2014年、2015年]

	鹿児島	指宿	霧島	北薩	大隅
平成26年	6,410,737	1,992,397	3,639,296	2,615,870	1,744,002
平成27年	6,772,507	2,032,813	3,848,086	2,981,483	1,802,890
前年比（増減率）	5.6%	2.0%	5.7%	14.0%	3.4%

	種子島	屋久島	奄美	その他	計
平成26年	276,193	533,307	888,448	2,766,251	20,866,490
平成27年	308,128	511,712	1,046,229	2,870,886	22,174,730
前年比（増減率）	11.6%	-4.0%	17.8%	3.8%	6.3%

●鹿児島県「平成27年 鹿児島県の観光の動向～鹿児島県観光統計～」

Point!

北薩地区への観光客は大幅に増加している

1: 鹿児島県の北部にある地域を指し、阿久根市、薩摩川内市、出水市、さつま町、長島町からなる。

分析② 市への訪問客の動向（独自分析、まちづくりマップ）

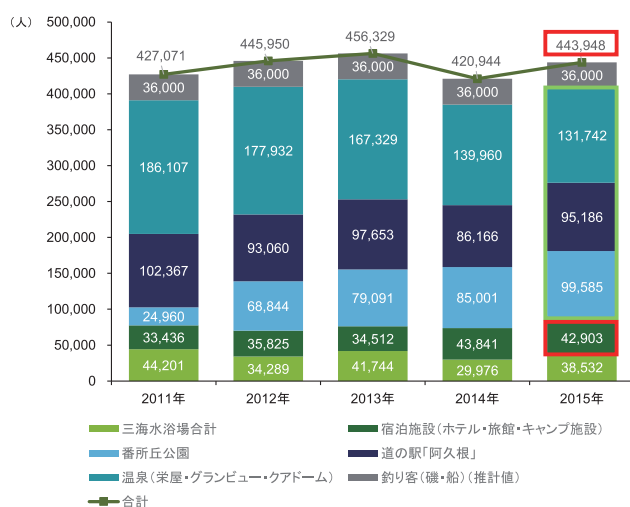
次に、阿久根市への訪問客の動向について分析した。

図3は市の観光施設等の利用者数の状況を示したものである。これをみると、市における観光施設利用者はほぼ横ばいである。また、市の2015年における観光施設利用者約44.4万人のうち宿泊施設を利用した観光客は約4.3万人と1割程度であり、大半は日帰りの観光客であることが分かる。さらに、温泉施設、道の駅「阿久根」、公園が利用施設の大半を占めていることから、観光客の大半は数時間程度の滞在となっており、市内に長時間滞在する観光客は少数であることが推測される。

一方で、図4は休日にとどの自治体から市を訪問する人が多いかを示したものである。これをみると、市への訪問客は近隣エリアの自治体が上位を占めていることが分かる。

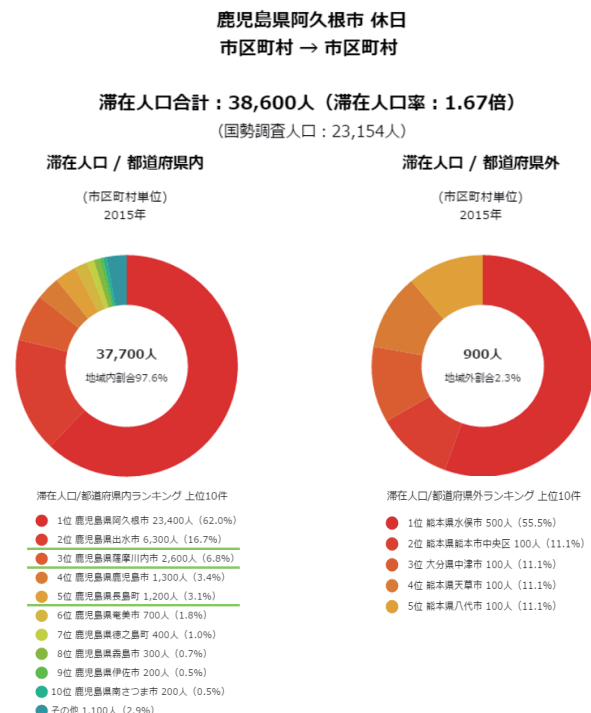
以上より、鹿児島県および北薩地区への観光客が増加している一方で、市の観光施設を訪れる観光客数はほぼ横ばいであり、属性としては近隣エリアから訪れる日帰り観光客が大半を占めていることが推察される。

（図3）阿久根市の観光施設利用者［2011年～2015年］



●鹿児島県阿久根市「統計あくね」を基に阿久根市作成

（図4）まちづくりマップFrom-to分析（滞在人口）（休日平均）[2015年]



●まちづくりマップ>From-to分析（滞在人口）>「表示地域単位を切り替える」で「市区町村 → 市区町村(指定地域)」を選択>「表示する内容を指定する」で「休日の動向を表示する」を選択>グラフを表示
（注）2017年2月におけるRESAS第2次リリース前のマップであり、現時点の内容とは一致しない。

Point!

市の観光施設への観光客数はほぼ横ばいであり、近隣エリアからの日帰り客が大半を占めていると推察される

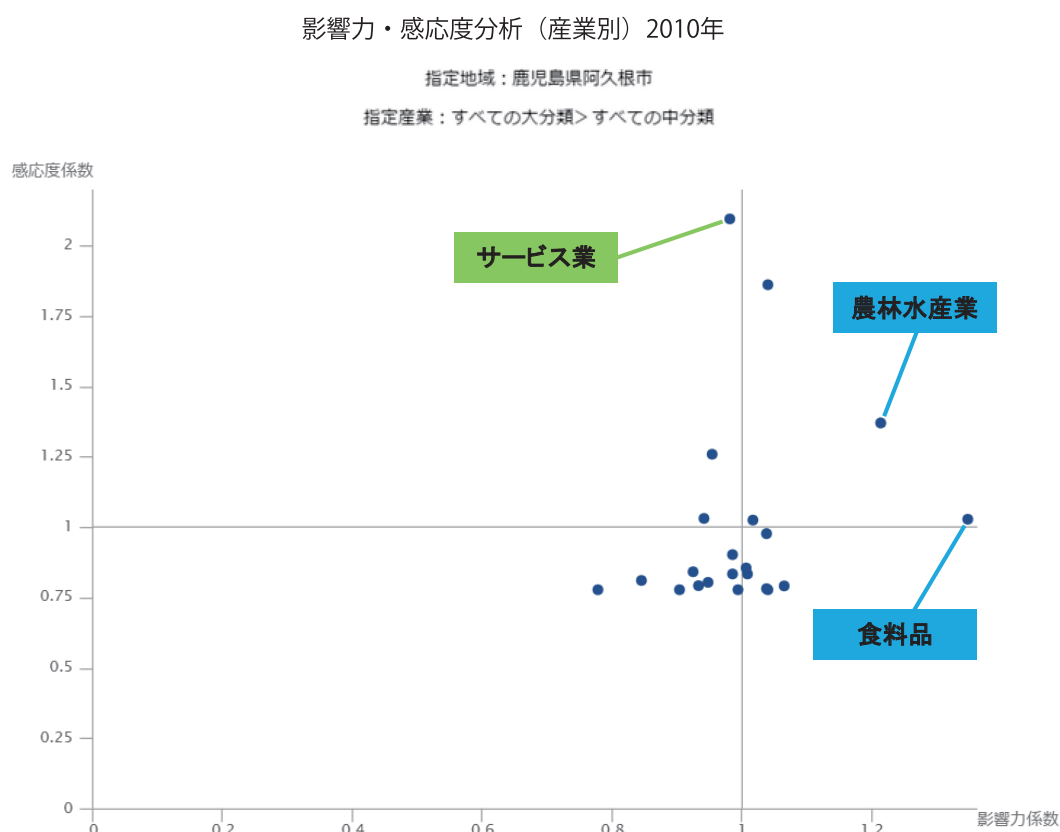
分析③ 市内産業の影響力係数・感応度係数（地域経済循環マップ）

観光によるまちづくりの検討を進めるにあたって、阿久根市の産業の現状を分析した。

図5は市における産業の経済波及効果を示しているものである。これをみると、観光と関係が深い「サービス業」は感応度係数^{*2}が高く、他の産業から影響を強く受ける産業である一方で、「農林水産業」と「食料品」は影響力係数^{*3}が高く、他の産業に強く影響を与える産業であることが分かる。

以上より、「サービス業」は「農林水産業」や「食料品」の発展に牽引されて経済波及効果を見込むことができる産業であることが分かった。

（図5）地域経済循環マップ 生産分析（影響力・感応度分析）[2010年]



●地域経済循環マップ＞生産分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞影響力・感応度分析

Point!

食料品、農林水産業の強化がサービス業の活性化に影響を与える

2: 全産業に対する新たな需要による特定の産業の感応度を示す係数で、係数の値が大きいほど他産業から受ける影響が大きいということを示す指標である。

3: ある産業に対する需要が全産業に与える影響の度合いを示す係数で、係数の値が大きいほど他産業に対する影響力が大きいということを示す指標である。

分析④ 市内の産業構造（地域経済循環マップ）

次に、図5(分析③)の影響力・感応度分析において特徴が認められたサービス業、農林水産業、食料品を中心に、阿久根市の産業構造を分析した。

図6は市における産業別の生産額の総額を示したものであり、また、図7は産業別の1人当たりの生産額を示したものである。これらを見ると、「サービス業」および「食料品」の生産額の総額は高いものの、いずれも1人当たりの生産額の水準は低い状況にあることが分かる。

また、図8を見ると、修正特化係数は「サービス業」、「農林水産業」、「食料品」いずれの産業においても1.00を超える値を示しているものの、「サービス業」の水準は「農林水産業」および「食料品」と比べて低い水準にあることが分かる。

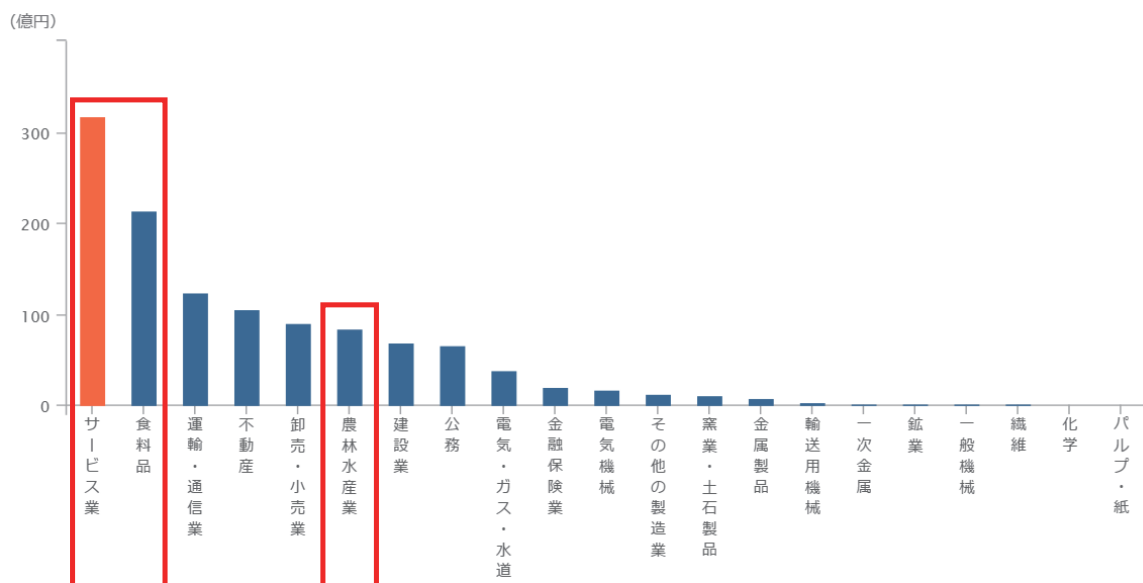
以上より、「サービス業」の稼ぐ力は弱い一方で、「農林水産業」および「食料品」は稼ぐ力が強く、他業種への影響力が高いこと（分析③）を勘案すると、「農林水産業」や「食料品」といった「食」に関連する産業を巻き込んで観光事業を推進することによって、市の観光事業の発展につながる可能性があることが分かった。

（図6）地域経済循環マップ 生産分析（生産額（総額））[2010年]

生産額（総額－産業別）2010年

指定地域：鹿児島県阿久根市

指定産業：第3次産業＞サービス業



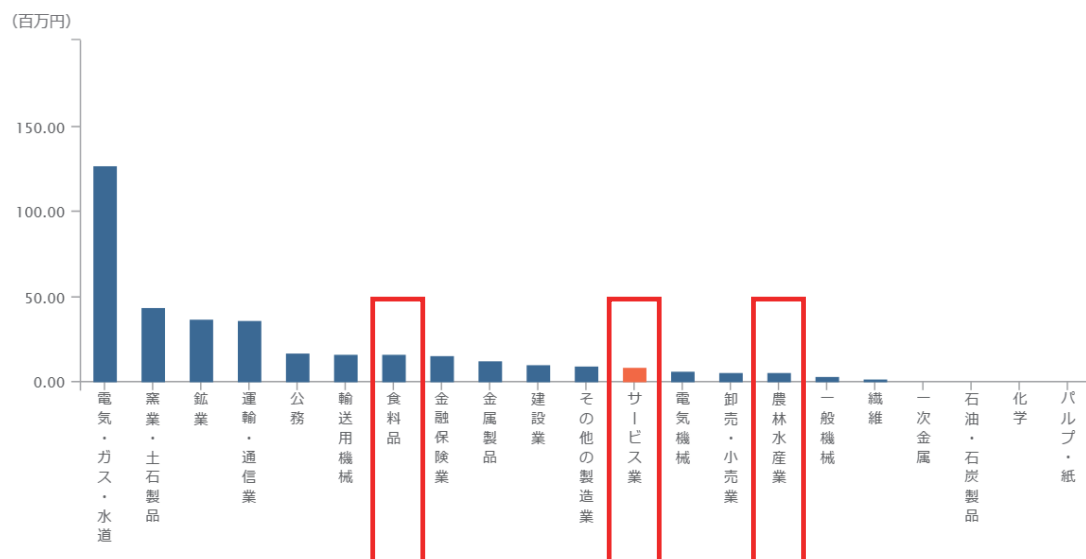
●地域経済循環マップ＞生産分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞「表示産業を指定する」の大分類で「第3次産業」、中分類で「サービス業」を選択＞グラフを表示

(図7) 地域経済循環マップ 生産分析（生産額（一人当たり））[2010年]

生産額（一人当たり―産業別）2010年

指定地域：鹿児島県阿久根市

指定産業：第3次産業＞サービス業



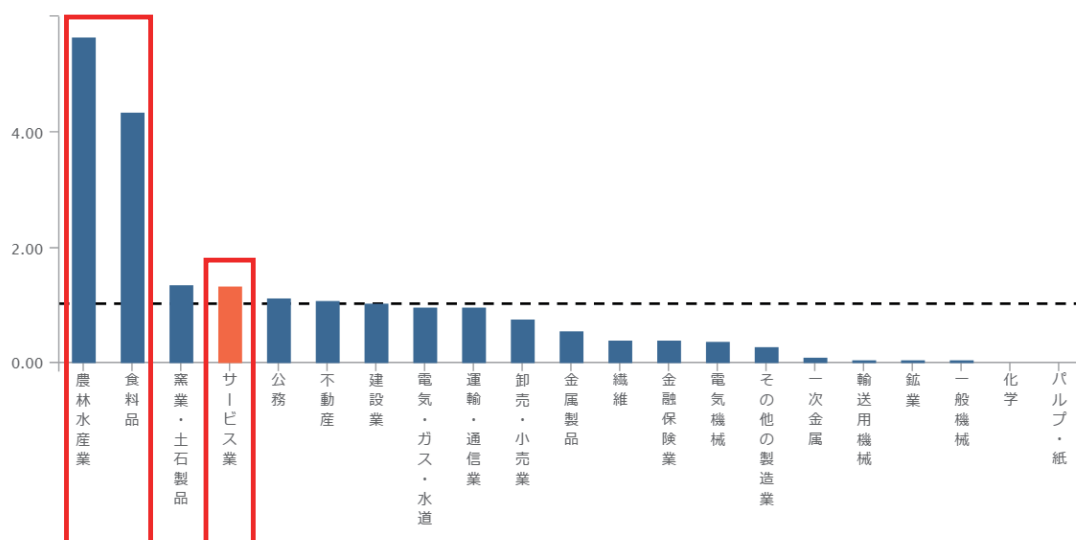
●地域経済循環マップ＞生産分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞「表示産業を指定する」の大分類で「第3次産業」、中分類で「サービス業」を選択＞グラフを表示

(図8) 地域経済循環マップ 生産分析（生産額（修正特化係数））[2010年]

生産額（修正特化係数―産業別）2010年

指定地域：鹿児島県阿久根市

指定産業：第3次産業＞サービス業



●地域経済循環マップ＞生産分析＞「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択＞「表示産業を指定する」の大分類で「第3次産業」、中分類で「サービス業」を選択＞グラフを表示

Point!

サービス業の稼ぐ力が弱い一方で、農林水産業や食料品の稼ぐ力は強い

課題の見える化

鹿児島県や北薩地区でみると観光客は増加しているが、阿久根市はほぼ横ばいであることから、域内に観光客をうまく取り込むことができておらず、阿久根市は通過型観光地になっているという課題を抱えていることが分かった。

一方で、農林水産業や食料品といった産業は稼ぐ力が強い上、他業種への影響力も大きいことから、「食」を核とした観光事業を展開することによって、市の観光産業は発展する可能性があることが分かった。

以上の分析を踏まえて、今後市が観光事業を展開していくにあたってターゲットとする客層を明確化するとともに、現状の課題となる点を具体化することによって、実行力のある観光戦略の策定につなげるため、さらに分析を進めた。

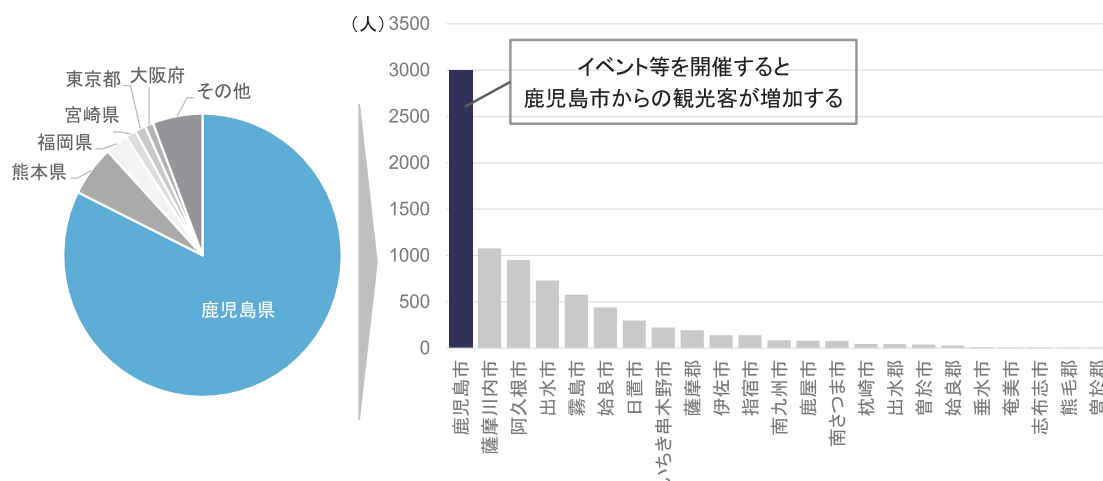
分析⑤ イベント開催における訪問状況（独自分析）

阿久根市の観光産業の課題を検討するにあたり、まず、市の観光イベントに訪れる観光客の居住地について分析した。

図9は毎年9月から10月にかけて開催している阿久根伊勢えび祭りのアンケート結果を集計したものである。これをみると、鹿児島市および近隣自治体からの観光客が大半を占めていることが分かる。さらに、図4(分析②)の滞在人口と比較すると、特に鹿児島市の割合が大きいことが分かる。

以上より、観光イベントを開催することによって、近隣エリアだけでなく、鹿児島市等の近郊都市圏在住の観光客も増加することが分かった。

（図9）阿久根伊勢えび祭りの来場者分析 [2015年]



●阿久根市「阿久根伊勢えび祭り来訪者に対するアンケート結果」（アンケート対象者10,000人）

Point!

近隣エリアだけでなく、鹿児島市等の近郊都市圏も観光事業のターゲットになる

分析⑥ 市内の観光資源の現状（独自分析）

次に、観光まちづくり戦略策定のきっかけを得るため、阿久根市の観光資源の現状を分析した。

図10は市役所における観光関連資料、市で開催したワークショップおよび市民へのヒアリング結果を基に、市の観光資源を一覧にまとめたものである。これをみると、例えば、山・海・里の食材や加工品が豊富であり、また、独自の歴史や人物が存在していることが分かる。さらに、年中を通して開催される各種イベントや自然が大きな魅力となっており、観光施設は多くないものの、玄関口となる駅や港、ジビエ^{※4}加工施設等独自の施設が存在していることが分かる。

以上より、市には多彩な観光資源が存在することが確認できた。

（図10）市の観光資源のまとめ [2016年]

食			イベント・自然・レジャー		
魚介	✓ うに ✓ 伊勢えび ✓ たかえび（薩摩甘えび） ✓ 鯛 ✓ アジ・きびなご ✓ 川エビ	果物 ✓ ほんたん ✓ デコボン・大将季 ✓ 温州みかん・紅甘夏	イベント	自然	✓ 夕景 ✓ 牛之浜海岸 ✓ 阿久根大島 ✓ 脇本海岸 ✓ 大川島海水浴場 ✓ 黒之瀬戸（渦潮） ✓ 梶折鼻公園 ✓ 肥薩おれんじ鉄道沿線のカノコリ ✓ 笠山あじさい園 ✓ 番所丘からの星空 ✓ ウミガメ ✓ 竹林 ✓ 堂 ✓ 奇岩・奇礁
肉	✓ 黒毛和牛 ✓ 鹿・イノシシ等ジビエ	加工品 ✓ つけあげ ✓ 文旦漬 ✓ 水産物の塩干加工品 ✓ 旅する丸干し ✓ 鶴翔高校「3年A組の」シリーズ ✓ うに加工品 ✓ ちくわ			
野菜	✓ 早掘りたけのこ ✓ そらまめ・グリーンピース ✓ しいたけ・えのき・薩摩クイーン茸	酒 ✓ 焼酎			
米	✓ 米	グルメ ✓ うに井 ✓ たかえび井 ✓ さばめし			
歴史・人物					
歴史	✓ 阿久根市郷土資料館 ✓ 河南源兵衛（江戸時代御用商人） ✓ 寺島宗則（明治政府外務卿・電信の父） ✓ 中尾純利（国産飛行機による世界初の世界一周） ✓ 丹宗庄右衛門（八丈島に焼酎の製法伝授） ✓ 薩摩街道出水筋 ✓ 謝文旦の碑 ✓ 坂本龍馬 ✓ 西南戦争（平出石の水） ✓ 古墳 ✓ ルイス アルメイダ ✓ とっほどの墓 ✓ 対中貿易	人	✓ 華の50歳組 ✓ 明るい人柄と人の良さ ✓ 鳥飼源晴医師 ✓ 村井英明氏（ウィルソン社のグラフィック製作） ✓ ミシュランシェフ（中村勝宏シェフ）（伊地知雅シェフ）	レジャー	✓ リバートレッキング ✓ キャンプ ✓ 釣り ✓ サーフィン
	施設				
娯楽施設		✓ にぎわい交流館阿久根駅 ✓ 温泉	公園 ✓ 番所丘公園 ✓ 戸柱公園 ✓ 頼山陽公園 ✓ サンセットロード ✓ 着生らの里		
産業施設		✓ ジビエ食肉加工施設 ✓ 港 ✓ 道の駅「阿久根」			

●各種資料およびヒアリング結果を基に阿久根市作成

Point!

市内には、各種イベントや自然等の多彩な観光資源がある

分析⑦ 市および近隣エリアの観光目的地（観光マップ）

次に、市内の多彩な観光資源が実際に利用されているかを分析した。

図11は阿久根市と近隣自治体である出水市および長島町を対象とした目的地検索の一覧である。これをみると、上位20か所の目的地について、その大半は出水市(9か所)および長島町(7か所)の施設であり、阿久根市の施設は4か所しかないことが分かった。さらに、目的地一覧に記載されている阿久根市の施設のうち、「グランビューあくね」については、2016年3月をもって休館しており、実質的には3か所しかない状況である。

以上より、市は多彩な観光資源を有しているものの、近隣自治体と比較して、目的地とされる観光施設が少なく、観光客を市内の観光施設へ呼び込む力が弱いことが分かった。

（図11）観光マップ 目的地分析（休日・自動車）[2015年]

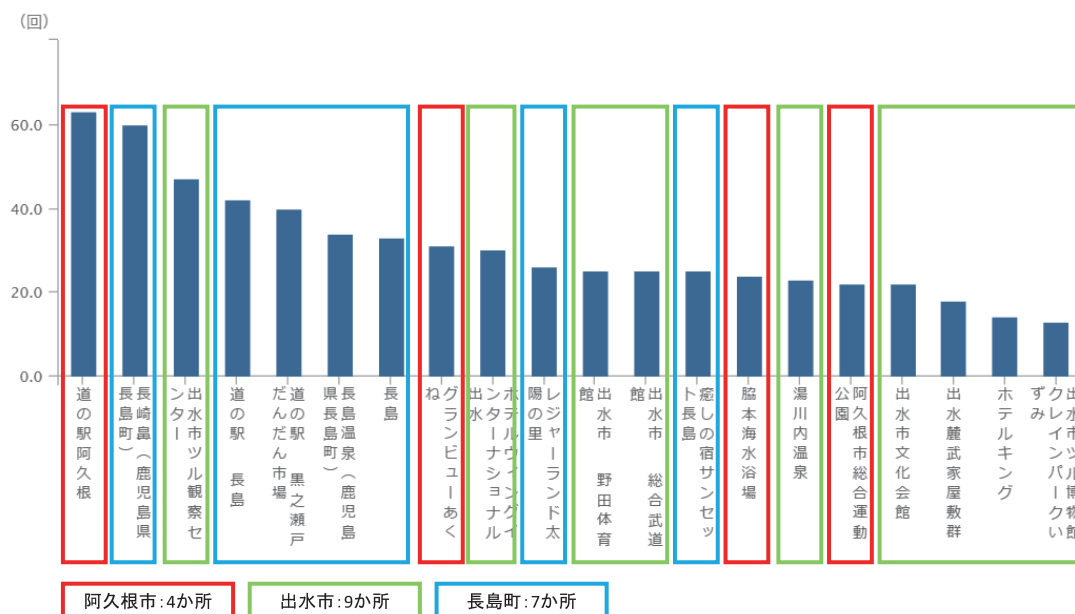
合算自治体：鹿児島県阿久根市、鹿児島県出水市、鹿児島県長島町

指定地域の目的地一覧

表示年月：2015年すべての期間（休日）

指定地域：鹿児島県阿久根市、鹿児島県出水市、鹿児島県長島町

交通手段：自動車



●観光マップ＞目的地分析＞目的地検索ランキングを表示＞「合算地域を追加する」で合算対象自治体を追加

Point!

近隣自治体と比較して観光客を呼び込む力が弱い

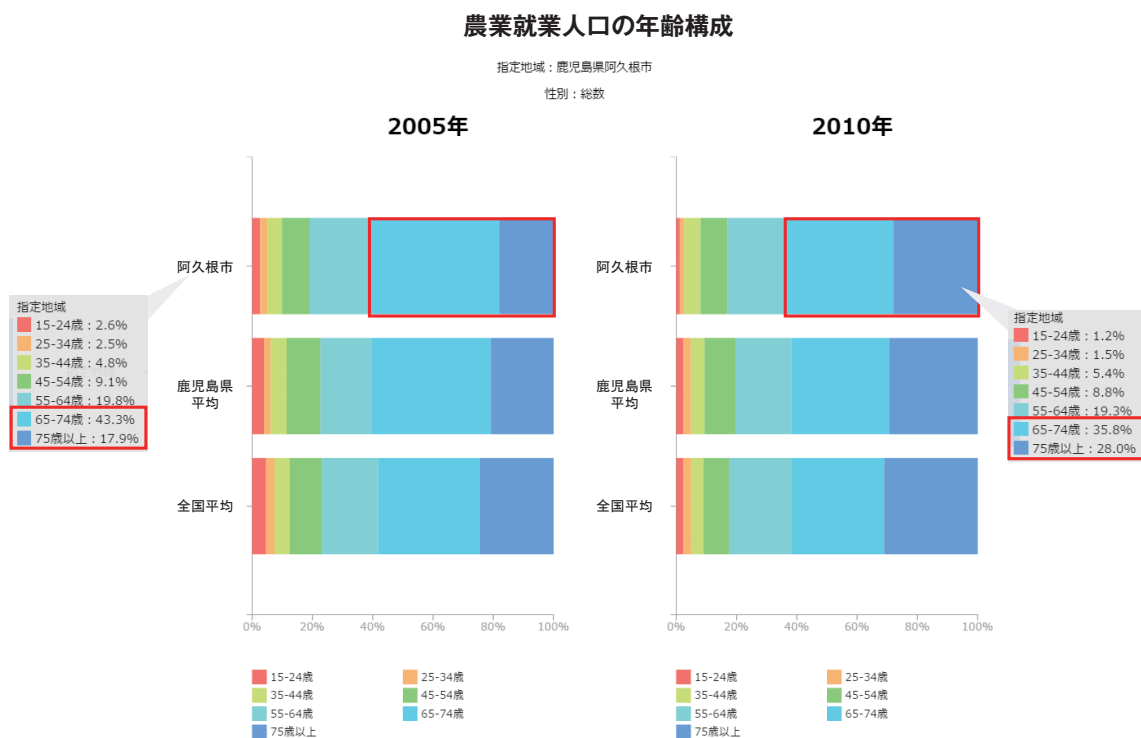
分析⑧ 農水産業就業者の年齢構成（産業構造マップ、独自分析）

「食」を核とした観光戦略を展開するにあたって、阿久根市の農業および水産業の現状を分析した。

図12は農業就業者の年齢構成を示したものである。これをみると、農業就業者のうち65歳以上の割合は、2005年が合計61.2%であるのに対し、2010年は合計63.8%となっており、増加していることが分かる。また、図13は海面漁業就業者の年齢構成を示したものである。これをみると、海面漁業就業者のうち65歳以上の割合は、2008年が43%であるのに対し、2013年は40%となっており、減少している。一方で、図14は海面漁業就業者数を年齢構成別に比較したものであるが、2008年と2013年を比較すると、65歳未満の就業者の減少率は26.1%であるのに対し、65歳以上の就業者の減少率は35.9%となっている。このことから、65歳以上の構成割合が減少したのは、65歳以上の就業者の減少率が65歳未満の就業者の減少率を大幅に上回ったことによるものであることが分かる。

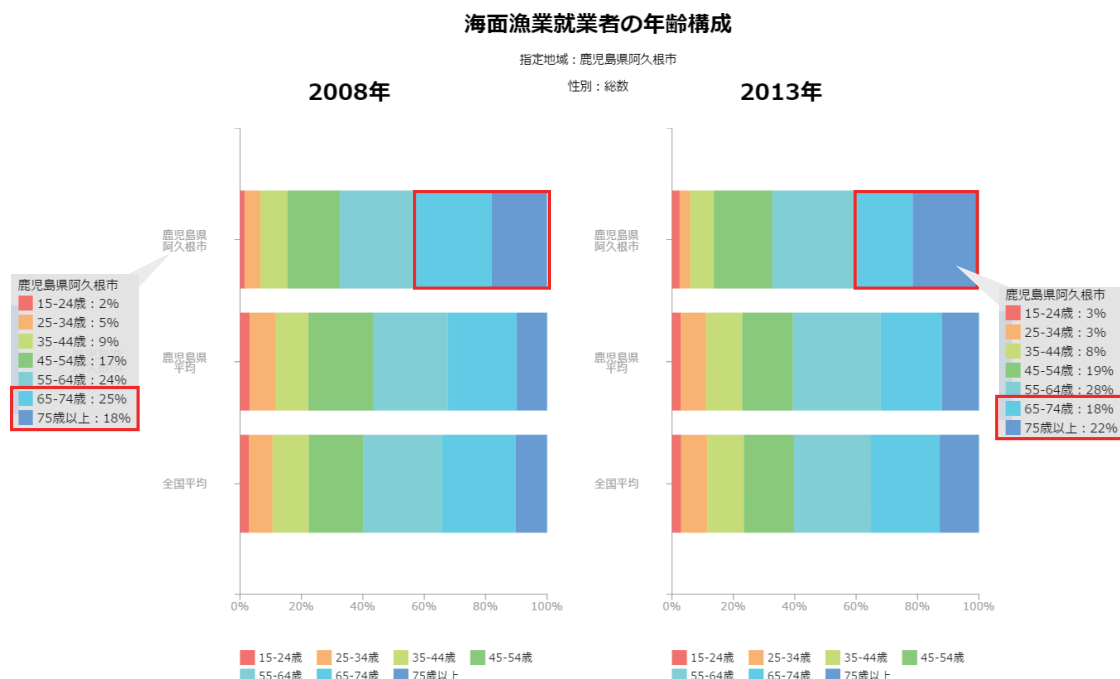
以上より、市の農業および水産業は高齢化および縮小していることが分かった。

（図12）産業構造マップ 農業者分析（農業就業人口の年齢構成）[2005年、2010年]



●産業構造マップ>農業者分析>「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択>年齢構成・平均年齢>「農業者の区分を指定する」で「農業就業人口」を選択する

(図13) 産業構造マップ 海面漁業者分析 (海面漁業就業者の年齢構成) [2008年、2013年]



●産業構造マップ>海面漁業者分析>「表示レベルを指定する」で「市区町村単位で表示する」を選択>海面漁業就業者の年齢構成

(図14) 海面漁業就業者の年齢構成別増減数 [2008年、2013年]

(単位：人)

	2008年	2013年	増減	増減率
15～19歳	2	3	1	50.0%
20～24歳	5	5	0	0.0%
25～29歳	5	4	▲1	▲20.0%
30～34歳	18	7	▲11	▲61.1%
35～39歳	13	10	▲3	▲23.1%
40～44歳	27	14	▲13	▲48.1%
45～49歳	34	26	▲8	▲23.5%
50～54歳	43	34	▲9	▲20.9%
55～59歳	58	46	▲12	▲20.7%
60～64歳	52	41	▲11	▲21.2%
65～69歳	46	33	▲13	▲28.3%
70～74歳	68	24	▲44	▲64.7%
75歳以上	81	68	▲13	▲16.0%
計	452	315	▲137	▲30.3%
うち65歳未満	257	190	▲67	▲26.1%
うち65歳以上	195	125	▲70	▲35.9%

●農林水産省「2008年漁業センサス」および「2013年漁業センサス」を基に阿久根市作成

Point!

農水産業の就業者は高齢化かつ減少している

得られた示唆と課題解決のための施策案

市内の観光イベントでは阿久根市に広範囲から人が来ていることから、近隣エリアだけでなく、鹿児島市等の近郊都市圏も観光事業のターゲットとなることが分かった。

また、多彩な観光資源を有しているものの、周辺自治体と比べると検索されている観光地は少なく、観光資源を活かす力が弱いことが分かった。特に、市では当初から市の魅力の情報発信が弱いこと、観光客を楽しませるための観光コンテンツが不足していること、市の魅力を伝えるための意識・取組を市全体で統一できていないこと等が課題であると認識しており、今回の分析結果と合致する形となった。さらに、「食」と関連した農水産業は、高齢化および縮小していることが分かった。

以上を踏まえ、市は現在検討している観光まちづくり戦略の中で、特に「食」のブランド化を中心とした観光コンテンツの充実を優先的に取り組むこととした。具体的には、第一に市の「食」事業の現状を把握するために、農水産業者に関する商流の現状把握や、食のバリューチェーンにおける課題を整理し、「食」のブランド化に向けた取組やビジネスモデルを検討する予定である。第二に、自然に恵まれた農水産物をはじめ、市が誇る地場産品について物産館や観光施設等の販売場所の充実を推進する予定である。第三に、日帰り県内在住者や市通過者に対し、限られた時間でも効率的に阿久根の「魅力（みどこい）」に触れられる回遊プランを作成するなど、観光資源を活かした旅行コンテンツの作成を行う予定である。

また、農水産業の高齢化および縮小という課題に対しては、後継者不足の環境においても継続して機能する物流の仕組みの検討および整備の実施も行うこととしている。さらに、市全体で一体となって観光戦略を展開するための推進体制を整備することについても検討している。

利活用の現場から ― 阿久根市 商工観光課 ―

これまでは地元の人にとっても観光都市としてのイメージは薄かったという阿久根市。なぜ観光に着目し、どのような目的でRESASを活用したのか、担当部署にお話を伺った。

肌感覚で認識していた課題を見える化した

阿久根市では、これまで20年以上にわたって「アクネ うまいネ 自然だネ」をキーワードに観光事業を推進してきました。しかし、近年の人口減少や高齢化の影響により、市の観光も衰退の一途をたどるようになってしまっています。このような厳しい現状は肌感覚では把握しているのですが、実際のデータで検証したことがなかったのです。いまひとつ実感がわかなかったのです。



■ RESASを見ながら施策を検討する職員

そこで、市の現状を感覚的なものではなくデータを基にしてしっかりと分析することにしました。そこで役に立ったのがRESASでした。RESASを基にした市の現状分析結果をみると、今までは感覚的に意識していた課題がほとんどそのままデータに表れていました。さらに、このRESASを基にした分析結果は、市民や関係各所と、市の観光に関する課題を共有するための重要なツールにもなりました。

「阿久根といえば〇〇」を作り出す

「阿久根の売りは何？」と聞かれば、阿久根大島、黒之瀬戸、海の幸、ボンタン、デコポン、ジビエ、といういろいろ挙げるときりがありません。しかし、「その中でも阿久根といえば何？」と聞かされると、市民統一のワードが出てこないのです。一方で、日本有数の観光都市は、このような「〇〇市といえば〇〇」というワードがすぐに出てきます。

今後、観光事業を進めていくにあたっては、数ある観光資源からこのようなワードを作り上げなければならないと感じています。しかし、このようなワードはある日ふと湧いて出てくるものではないので、RESASを使った地道な分析や協議を踏まえて見つけていくことができればよいと考えています。

稼げる事業を目指して

観光まちづくりを進めるにあたってどうして「食」をテーマにしたのか。観光事業を再起させるためには、市に観光客が来て、単に市内で消費してもらうだけでは十分でない。すなわち、観光事業が市にとって稼ぐことができる産業になることが重要であると考えています。そのためにも、RESASの分析によって認識できた市内で強い産業とうまく連携していくことが重要であると考えました。

今後は、「阿久根の『食』や『自然』に歴史や文化のストーリーを付加して宝に磨きあげ、体験型ツーリズム等の推進により阿久根ファンの増加を目指す」といったテーマのもとで、観光コンテンツを充実させること等により、稼げる事業にすることを目標として来年度以降戦略を展開していきます。



■ 市民ワークショップの開催模様